

日本語の語中無声破裂音の音声的特徴—語末から切り出した単独発話の場合—

Chu Chi

本研究は、これまで表立って議論されてこなかった「日本語の文末の無声破裂音を文脈から切り出すと、日本語母語話者が切り出した音節を無声破裂音ではなく、有声破裂音と知覚する」という現象に着目し、それに関与している要因について考察したものである。従って、音響的無声破裂音を有声破裂音と知覚するかどうか確認するため、語末の無声破裂音を利用し、正誤判断タスクにおける知覚実験を行った。

本研究では、日本語母語話者 20 名を対象として、日本語母語話者が録音語（「アパ」等）から切り出した無声破裂音（「パ」）を有声破裂音（「バ」）と知覚するかどうかを検証するために知覚実験を行った。その際、後続母音の f_0 影響を考慮するために、 f_0 が低い刺激語（頭高型の「アパ」等から切り出した「パ」）と f_0 が高い刺激語（平板型の「アパ」等から切り出した「パ」）を用いた。その結果、日本語母語話者は、低い f_0 の無声破裂音を有声破裂音と判断することが明らかとなった。更に、切り出した無声破裂音において、低い f_0 の無声破裂音と知覚する比率が高い f_0 よりも有意に低かった。すなわち、切り出した無声破裂音を有声破裂音と知覚する要因については、後続母音の f_0 が影響を及ぼしていることが示唆された。

以上の結果を総合的に見ると、後続母音の f_0 は邊姫京 (2019) 「日本語における語頭閉鎖音の音響特徴—VOT と後続母音の f_0 —」(『音声研究』23) で挙げられた日本語の有声・無声破裂音の弁別に寄与する音声的特徴であるが、録音語から切り出した単独の無声破裂音でも、 f_0 の影響を受け、日本語母語話者の聴き取りに関わっているという事実は重要な知見だと思われる。